

じんクリニック通信

第13号 2017/5/29

動脈硬化とカルシウム・リン・ 副甲状腺ホルモンの関係について

透析患者さんは様々な原因で動脈硬化が進行しやすいと言われていています。動脈硬化は脳梗塞や心筋梗塞、脳出血の原因になります。

透析患者さんの動脈硬化のコントロールには以下の3つが重要と言われていています。

#1 カルシウム

#2 リン

#3 副甲状腺ホルモン

この3つは腎臓の機能が落ちてくるとバランスが変わってくるため治療が必要です。

[裏面へ](#)

腎臓の機能が低下すると体内では以下のような変化が起こります。

カルシウムを体に取り込みにくくなる

→ 体内のカルシウムは低くなる

リンを尿から排泄できなくなる

→ 体内のリンは高くなる

カルシウムとリンの上記の変化の結果として体内の副甲状腺ホルモンが高くなる

更に、治療を行うとバランスが変わることがあります。

例えば副甲状腺ホルモンの治療薬であるビタミンDを投与すると副作用としてカルシウムが高くなりすぎることもあるためビタミンDを中止する必要があります。

このように複雑に絡み合っていますが透析患者さんの動脈硬化の予防にはカルシウム・リン・副甲状腺ホルモンのコントロールが非常に重要です。

当クリニックではカルシウム・リンは毎月2回、副甲状腺ホルモン（検査結果にはPTH-intactと表示されます）は3ヶ月に1回の検査（学会の推奨頻度）をしています。

ご不明な点はスタッフまでお尋ねください。